

課題

- 高田松原津波復興祈念公園は敷地が広範で移動距離が2kmを超えることから、移動が困難な人も含めた移動手段の確保と、より効果的な伝承活動の促進が課題
- 地域内では、交流の場や日常不可欠な活動の移動等、モビリティの改善及び生活の足の確保が課題



(高田松原津波復興祈念公園)

推進体制



課題解決に向けた取組

高田松原津波復興祈念公園を起点とした  
自動運転サービス社会実装

- 自動運転サービス社会実装
  - ・ 環境に配慮した再生可能エネルギーで走行するグリーンスローモビリティ等を活用し、高田松原津波復興祈念公園内及び各震災遺構をめぐる自動運転サービスの実装
  - ・ 自動運転サービスと高田松原津波復興祈念公園内のパークガイドとが連携し、震災や復興の状況をストーリーとして利用者へ提供することによる効果的な震災伝承活動
  - ・ 通信予測制御技術等を活用した複数台の自動運転車両の遠隔監視や運行間隔等の制御
  - ・ 高田松原津波復興祈念公園内での実証結果や活用した技術等を活用し、市内公共交通へ展開することで、交流の場への移動や日常生活に不可欠な活動（買い物、通院、通学）の移動等、地域コミュニティの形成等の課題解決にも繋がるよう検討



(自動運転サービスによる運行ルート案)



(自動運転車両のイメージ)

2021年度の  
主な取組

- 高田松原津波復興祈念公園内における自動運転サービス導入の事業化を図るため、未来技術地域実装協議会を設立
- R4年度からの自動運転実証実験に向け、全体計画やルートや走行方法等について事業者等との検討を開始
- 高田松原津波復興祈念公園内のパークガイド運営主体等と連携し、自動運転サービス運営プラン等について検討を開始